

## 瓊林49~100号 「随想」寄稿者

(1) 「瓊林」49~100号の「随想」寄稿者/複数寄稿者——文芸的自負を探る試み。

「随想」一覧表では、寄稿者個人の人的魅力と自負を探るべく文芸的視点を重んじて記事を選んだ。「瓊林」各号を捲ると、此処には母校を終えて、積年、社会や戦役に従事し、生業と家庭妻子を育て、夫々に納得する生を得た先達の語りが綺羅星の如く並んでいる。隆盛期の「瓊林」は、自己の見識を世に問う総合文芸誌的な自負と、「暁星淡く」下の同窓生が持つ旧制高校(ナンバースクール)的な教養主義への敬慕があった。

(2) 彼らの心奥には「ノブレス・オブリジエ」に並んで「リベラルな生活倫理」が確かな形で存在した。隆盛期「瓊林」の各稿に潜む長崎高商の文化的な姿勢は、先に(49号)が宣言した[同窓親睦交歓]=編集事務局の期待にも応えるもので、本誌の有無形の文化的特性として形成され、後続者にも自然に受け継がれていく。世の辞書には「ノブレス・オブリジエ=高い身分・地位に伴う義務や振る舞い」「リベラル=社会的弱者の救済を含む自由と寛容」とある。この2つの言葉は当時の瓊林同窓会活動の暗黙の理念ではなかったか。

(3) 「随想」寄稿者一覧表は今回拾いあげた寄稿者183名全体の一覧表(Index)であり、各欄は[掲載号・氏名(卒回 G=学部)・記事表題・寄稿数]とした。本表で黄色網掛にて示した複数寄稿者については、最初に寄稿された原稿表題のみが記載されている。複数寄稿者については別表を作成し、個人毎の記事全部を、[氏名(卒回G=学部)・記事表題・掲載号]順に掲示することにした。

※「随想」欄寄稿者一覧表で、単数(1回限りの玉稿を拾った皆さま方)は107名であり、その中から特に印象の深い20篇の記事を選んだのが次表である。「瓊林」に対する想いと姿勢は、寄稿内容-単数・複数寄稿者に関わらず、皆さま全く同一であり、自己の想いを謙虚に静謐に披露されている。

### ★「随想」寄稿者—1回限りの玉稿を頂いた寄稿者20篇

No	誌	氏名(卒回)	記事表題～記事概要・その特質など
1	49	飯田大吉(7)	「老いの価値」-高島勘一(1)・横山征太郎(2)氏を送り、吾は「老醜剤/老美丸」を処方して生きる。
2	51	西村宗一(1)	「思いだすま」-奈良の山奥から長崎西山へ、(M41)十八銀入社-大阪-釜山-京城-役員、初代理事長。
3	51	脇山勘助(4)	「僕の健康」-九十翁の健康所見-禁酒禁煙、1940(S15)年2代日理事長、三菱造船-長崎電気軌道社長。
4	56	山岡宝(22)	「坂口スミさん」-片淵町3丁目の下宿の小母さんを32年振りに訪問。S5-13年高商生を送りだされた。
5	59	張春雨(31)	「瓊林簡釈」-(瓊林)の詞・出典の解釈は本号以降今日まで幾度か繰り返される。本稿はその先駆記事。
6	60	畠中義彦(32)	「仏像巡礼」-岩船寺-普賢菩薩像/阿弥陀如来像/十一面観音像を制作、近畿湖東湖北、国東半島を巡回。
7	62	寺田福夫(25)	「瓊林仏師の会」展覧会-寺崎勇夫(20)/畠中義彦(32)/最上義満(38)の作品の写真23葉を誌上掲載。
8	67	黒岩二郎(37)	「老子」に学ぶ-人為と分別知を捨て「道」に生きる実践的指南書。著名な歌人が乱世の書を紹介。
9	73	山内淳(13)	「長崎追憶」-T6 人力車で全寮制の母校入学。上山・山本・森・武藤・川島・田崎・西山・田尻諸先生の記憶
10	75	大西定夫(29)	「忘れがたい先輩の話」-武藤長蔵門下の偉材・山田憲太郎・雄長富光夫・寺崎勇夫を「鯉」に例えて追悼。
11	79	広瀬繁喜(30)	「雲仙岳噴火」-1990年雲仙岳198年振りに噴火、1991/9/15大火砕流。本会島原支部長の状況報告。
12	82	田中健一(G21)	「景気論争」-日米エコノミストによる景気討論会に出席。0%成長期に入った言葉「不況」の重み。
13	85	本多正明(G24)	「次男正幸のこと」-夭折した6才児への想い、マタイ伝・典礼聖歌「ごらんよ空の鳥」が好きだった。
14	93	中村和雄(41)	「奇蹟的な再会」-原爆被災時に救出した県立女学生Yさんに52年後に出会う「原子雲の青春」が縁。
15	94	船橋佐和子(G33)	「暁の星を見るごとく」-商人の家に生れ憧れの母校を選ぶ、長崎駅前ウイングボートは母校歌詩から。
16	95	故・林田重美(20)	「太平洋戦争と外交官交換船」-(S16)/12/7NY総領事館より、翌年8/20浅間丸で横浜帰着までの苦難。
17	97	欽塚茂則(34)	「轟沈(卒業生の戦記)」-奄美大島沖で三井船舶富山丸は敵潜に撃沈される。海中から救助されるまで。
18	99	大廣智佳子(G30)	「最近の体験から」-高松市在住・香川県庁勤務19年目・生活保護スワーカー担当として考える。
19	100	富永佳代子(G32)	「NPO法人の挑戦」-Knots(結び目)=人と動物の共生について考える」活動に関わりあって。
20	100	日高剛(G42)	「職業選択の自由?!」-日本フィル・ホルン奏者の海外諸国を巡る就括(オーデション)体験談。

No	掲載号	寄稿記事 表題	氏名(卒回)	卒回	稿数	No	掲載号	寄稿記事 表題	氏名(卒回)	卒回	稿数
1	49	ニース発観光列車の旅	五島敏郎(26)	26	15	51	57	三羽鳥の記	高橋一人(25)	25	3
2	49	帰って来た光	鶴谷栄一(27)	27	44	52	57	思い出	中畠文雄(27)	27	4
3	49	印象に残る諸先生	長田俊雄(27)	27	2	53	57	春香菜咲	鮫島正勝(31)	31	8
4	49	昔を今に	珍竹林(26)	26	19	54	57	語学大会の思い出	小島清寿(17)	17	1
5	49	三十六年振りの学友	武光威夫(22)	22	1	55	57	三高商リーダー戦後記	佐藤龍夫(20)	20	1
6	49	老いの価値	飯田大吉(7)	7	1	56	59	一世半	木村明(18)	18	4
7	50	病中及療養旬日記	塚原仁(16)	16	2	57	59	友の会・四年の歩み	広野敬吾(9)	9	3
8	50	山女魚と鮠	川畑明彦(20)	20	2	58	59	瓊林簡釈	張春雨(31)	31	1
9	50	犬と老人	榎屋九秋/良一(14)	14	3	59	60	「私の本棚」から	雪竹助三(27)	27	7
10	50	近頃の若い者	野副省三(41)	41	6	60	60	仏像巡礼インドで考えたこと	中村敏郎(35)	35	2
11	50	恩師・河野吉男先生のこと	徳山宣也(G5)	G5	4	61	60	湯湾岳隼人族は島づたいに北上	松竹秀雄(42)	42	6
12	50	五十年	岩井鶴次郎(21)	21	1	62	60	仏像巡礼	畠中義彦(32)	60	1
13	50	人生の転機	樋口徳光(31)	31	1	63	60	熊の足跡	松本清光(26)	26	1
14	50	説得の時代	渡瀬浩(34)	34	1	64	61	ソ連邦北極圏を訪ねて	長縄三郎(28)	28	4
15	50	東京瓊林句会発足	回森澄夫(33)	33	1	65	61	理の人 情の人	山崎良文(37)	37	8
16	50	港町一長崎・ナポリ・シドニー	岡部芳夫(35)	35	1	66	61	長崎の言葉	上田伝(23)	23	1
17	50	俠友・土橋保夫君逝く	田川博康(G4)	G4	1	67	61	丹羽少尉・指宿	本田松男(27)	27	1
18	51	何故！長崎が恋しい	安藤寛(6)	6	4	68	61	原爆祈念式に被爆者代表	山田昌介(40)	40	1
19	51	メキシコ・クエルナ	津山秀雄(22)	22	5	69	61	川島教授の死と武藤先生の涙	平原直(16)	16	1
20	51	思い出の英国点描	林田重美(20)	20	2	70	61	「或る青春の挫折」亡友日記より	屋敷田賢作(G10)	25	1
21	51	わたしのマドリード	岩松繁俊(40)	40	2	71	61	長崎水害の記	山本八郎(23)	23	1
22	51	武藤先生の追憶	伊藤久秋(11)	11	1	72	62	質屋直行の恩師の外套	江崎湖南雄(25)	25	2
23	51	九十才の挨拶	名井貞亮(6)	6	1	73	62	武藤長蔵先生の思い出	江頭巖(34)	34	10
24	51	思い出すまま	西村宗一(1)	1	1	74	62	瓊林佛師の会	寺田福夫(25)	25	1
25	51	妻への勲章	村上唯之(29)	29	1	75	63	葦の瑞からアメリカ覗く	野口芳太郎(24)	24	2
26	51	僕健康	脇山勘助(4)	4	1	76	63	関和蘭(延和子)さんについて	高比良洋一(G10)	G10	1
27	52	池田さんと私と瓊林会と	土師二三生(32)	32	3	77	63	「瓊翠会」発足について	浜崎由美(G34)	G34	1
28	52	浅野教授夫人訪問記	内野正丈(43)	43	4	78	64	山の辺の春	枝川一雄(23)	23	2
29	52	島暮らし	的野圭志(40)	40	2	79	64	「旅とコーヒー」	高石洋一(44)	44	6
30	52	わが四角関係(詩歌交友)	平尾勇(38)	38	2	80	65	長崎回顧(短歌抄)	原田弘道(20)	20	2
31	52	老いのたわごと？	車田基安(14)	14	1	81	65	歩いてきた道	横瀬守雄(5)	5	1
32	52	三十三年目の旅	石垣定男(18)	18	1	82	66	武藤先生お墓参拝の記	松崎秀治(31)	31	8
33	53	たけちみこの夢	末永恒雄(25)	25	13	83	67	空港で落とした絵	梅野隆(44)	44	1
34	53	十六年振りの長崎	平野豊(28)	28	1	84	67	老子に学ぶ	黒岩二郎(37)	37	1
35	54	南九州敗戦日記	寺崎勇夫(20)	20	17	85	67	日本を出てからのこと	山口政昭(G15)	G15	1
36	54	難民生活1周年の思い出	浜田千敏(19)	19	3	86	67	同窓会とは	山崎宝(32)	32	1
37	54	僕の回顧録	古賀琢一(21)	21	20	87	67	平和の仕事について	松永照正(43)	43	1
38	54	長崎ちゃんぽんぬすと聞きのこと	田村秀忠(27)	27	31	88	68	わが俳句讃	渡部隆道(42)	42	5
39	54	病める女房生きる亭主を走らす	永池/北有馬洋(G5)	G5	15	89	68	母校と私	森口茂(G24)	G24	1
40	54	「瓊林」の出典について	種吉義人(41)	41	5	90	69	「米欧回覧実記」を読む	糸山寛治(38)	38	5
41	54	薄命の「成隣会館」	三瀬清次郎(24)	24	2	91	69	支那事変と俳句-高商俳句会	福富義太(29)	29	1
42	54	回想片記	篠原康次郎(32)	32	1	92	70	長崎高商と少年時代	出来正夫(29)	29	1
43	54	日本民族の起源と文化	飛永重寿(23)	23	1	93	70	国際化談義	新納徳男(31)	31	1
44	55	七十二才の秋	山口実(21)	21	2	94	70	長大移転地は破籠井か京泊か	溝口元次(22)	22	1
45	55	不勉強の思い出	永島忠夫(32)	32	2	95	71	回想 ,或るガダルカナル戦記	八尋正隆(27)	27	14
46	55	一卒業生の80周年の夢	J・T	0	1	96	71	八千人の第九	寺田正市(G6)	G6	1
47	55	世の中のこと	嘉村武一(37)	37	1	97	71	野村証券の古き良き日の事	稲田実(16)	16	1
48	56	河野先生の喜寿を祝す	山崎匠(G6)	G6	22	98	72	寄与「瓊林会」72号・文稿	史介民(21)	21	2
49	56	坂口スミさん	山岡宝(32)	32	1	99	72	「島尾文学の世界」	柴山信雄(28)	28	8
50	57	佐世保地域地名雑考	於保薫平(22)	22	4	100	72	長崎のカステラげな	兵藤幸雄(38)	38	5

瓊林49～100号 「随想」寄稿者一覧

(複数寄稿者=黄色枠で表示)

101	73	平和の窓から	川口昭彦(G1)	G1	1	151	91	武藤先生と「倫理学の根本問題」	竹永秀次(31)	32	1
102	73	運命の岐路	杉原茂(32)	32	1	152	93	米国移民博物館を見学して	江島正信(G2)	G2	8
103	73	よみかた雑想	藤田源次郎(G2)	G2	1	153	93	還暦を迎えて	阿部清澄(G9)	G9	1
104	73	翳雲	松尾立石(G7)	G7	1	154	93	奇蹟的な再会	中村和雄(41)	41	1
105	73	仏との対話-私の宗教論	水田宝久(G2)	G2	1	155	93	先憂後楽	福田吉春(41)	41	1
106	73	長崎追憶	山内醇(13)	13	1	156	93	巨大証券の消滅を見送る	北島秀喜(G15)	G15	1
107	74	こんにちは瓊翠会です	湯藤康子(G5)	G5	2	157	93	山一証券自主廃業で思う	辻原留美子(G32)	G32	1
108	74	四十五年前	和泉二郎(38)	38	1	158	94	浪商と長崎高商と私と	三村脩(G1)	G1	7
109	75	田村教授の転出記事が本当なら残念	松本比佐雄(27)	27	21	159	94	「検察庁」に入り十四年	井上亮二(G33)	G33	1
110	75	忘れがたい先輩の話	大西定夫(29)	29	1	160	94	ある文学老年の足跡	宮崎信行(28)	28	1
111	78	張国富君の留学と母校愛	橋口誠一(G5)	G5	1	161	94	クロアチアの話	森真吾(38)	38	1
112	78	アルバム“追憶”を見て	棕本伊三郎(32)	32	1	162	94	別府先生の33回忌法要	大場敏男(G3)	G3	1
113	79	長崎と万葉集	緒方一浩(38)	38	1	163	94	暁の星を見る如く	船橋佐和子(G33)	G33	1
114	79	「アンダー50・60・80」作戦	小野光昭(G16)	G16	1	164	95	拜啓 泥棒様	新野武生(G6)	G6	2
115	79	雲仙岳噴火	広瀬繁喜(10)	10	1	165	95	長崎港の特攻隊(川路聖謨)	大賀重雄(37)	37	1
116	80	アメリカ遊学記	平岡邦三(19)	19	2	166	95	太平洋戦争と外交官交換船	林田重美(20)	20	1
117	80	宮崎から	徳光正行(G18)	G18	1	167	96	友とある記	原清(G8)	G8	1
118	81	母校の庭	川村忠男(G4)	G4	3	168	97	楽しみな出島の復元	渡辺凱昌(G3)	G3	2
119	81	ワークキャンプ(我が青春)	樋口隆也(44)	44	3	169	97	「遠藤周作文学館」落成記	今城厚二(G4)	G4	2
120	81	イギリス・ブロムナード	大串英男(29)	29	1	170	97	「君若き頃西陵去りて半世紀」編集記	今村研(43)	43	1
121	79	法話集「伽耶山のこだま」	朴峻杓(17)	17	1	171	97	轟 沈	欽塚重則(34)	34	1
122	82	高商よ、これでよいのか	菊岡孝一(24)	24	2	172	98	残存記(1)	中島文雄(27)	27	2
123	82	一枚の写真	藤原益蔵(37)	37	19	173	98	見性成仏への道-80坂を越えて	岡重敏(33)	33	1
124	82	イタリア雑感	永柄賢次(G12)	G12	1	174	98	欧亜大陸列車での横断記	福田正人(G11)	G11	1
125	82	景気論争	田中健一(G21)	G21	1	175	98	アメリカ公認会計士合格記	田中洋(G18)	G18	1
126	82	南山手	木下城力(42)	42	1	176	99	外国語を学んで	佐野暁(G3)	G3	4
127	83	私の中の長崎	広藤健一(G22)	G22	1	177	99	最近の体験から	大廣智佳子(G30)	G30	1
128	84	片淵町の思い出	清野信之(40)	40	2	178	99	五十年目の海軍日記	松崎久男(37)	37	1
129	84	素顔の中国ビジネス	中山良一(G20)	G20	4	179	99	イギリスの合唱団	吉田雄之進(46)	46	1
130	84	瓊林会への提言	堀太実男(G16)	G16	1	180	100	NPO法人の挑戦	富永佳代子(G32)	G32	1
131	84	長崎工専・被爆体験集の刊行	畑野昭雄(44)	44	1	181	100	職業選択の自由	日高剛(G42)	G42	1
132	85	「江戸東京博物館に大先輩を偲ぶ」	鐘ヶ江敏(41)	41	11	182	100	国立大学法人化を前にして	前田三郎(40)	40	1
133	85	私版養生訓	須見秀夫(36)	36	2	183	100	瓊林会を想う	藤吉亘(43)	43	1
134	85	長崎上海航路復活処女航海	長島俊一(G17)	G17	2	183		総計 183名	単数寄稿者の原稿数→	107	
135	85	次男正幸のこと	本田正明(G24)	G24	1						
136	86	“侘び”と“寂び”	張本五郎(G6)	G6	2						
137	86	われ幻の雑誌を見たり	田代英一郎(42)	42	2						
138	87	激動の10年間に身をおいて	上谷裕道(G26)	G26	1						
139	87	藤源会と今日の私の経営	宮崎達雄(G12)	G12	1						
140	87	瓊林会活性化の構想二案	内田恒吾(32)	32	1						
141	87	我々が子供に残すもの	野口市太郎(G26)	G26	1						
142	88	私の映画ライフ	吉本靖子(G27)	G27	1						
143	89	旅順再訪	石盛要(39)	39	3						
144	89	ドイツ語とバイオリン	小川鉄穂(35)	35	1						
145	89	わが故郷は遠くにありて	小林博之(G28)	G28	1						
146	89	伊・マルタ・堯・独の旅	社方勲(28)	28	1						
147	90	湖都大津雑感(その1)	畑瀬正也(41)	41	2						
148	90	「五六会」と「普賢」(1)	野元鴻(G1)	G1	2						
149	91	瓊林会報を会員交流の場に	大熊浩(G11)	G11	1						
150	91	外交官試験(遺稿)	川原謙一(25)	25	1						

①「瓊林」49～100号の「随想」欄には876件の記事が収載されて

いる。本表は「随想」欄を中心に、皆様にもご覧頂きたい

183名の記事595件(単数107件+複数488件)を選んだ。

なお(卒回)欄の(G1)は(学部1回卒)の意味である。

②本表で黄色の部分には複数回にわたり原稿を寄稿された方であるが、本表では初回の記事表題のみを掲げている。

③記事を複数回にわたり寄稿された常連寄稿者の詳細は「随想」複数寄稿者の欄の表をご覧頂きたい。

同表には寄稿者毎に、全ての記事表題と掲載誌号を提示して!